

Title	今関文庫掛軸類目録および翻刻
Sub Title	A catalog and transcription of hanging scrolls in Imazeki collection
Author	堀川, 貴司(Horikawa, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2025
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.59 (2024.) ,p.1- 18
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20240000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

今関文庫掛軸類目録および翻刻

堀川 貴司

二〇一四年に寄贈された今関天彭（一八八二～一九七〇）の旧蔵書のうち、掛軸類五二点の目録である。ほとんどはむき出しのまま長持に入れられ、水損・虫損の甚だしいものも多く、経常費および塾内助成の松永基金による修復を数年続けて、ようやく二〇二四年に全作品が閲覧調査可能な状態になった。なお、保存スペースの関係で、本来扁額のために揮毫されたもの（¹²⁶など）も含め、全て掛軸に表装している。

ここでは、「新収資料一覧」の体裁に倣って目録として掲げるが、書画作品として必要な情報（本紙寸法、素材等）を注記し、書作品や画賛等の本文（落款を含む）や、絵画の落款については翻字を添えた（印記のみ原文通り、他は通行字体に改め、適宜句読点を補う）。

〔山水図〕

唐一幅

今関
1-1
1

明米萬鍾画

萬曆四七年（一六一九）九月写（自筆）

一一三・二×三一・六糎、紙本墨書。

〔落款〕万曆乙未秋九月倣海嶽公筆意／米万鍾（印「米萬／鍾印」「中／詔氏」）

〔盆蒲盆蘭図〕

唐一幅

今関
1-2
1

〔清〕鄭燮画并賛

〔清〕写（自筆）

一二七・七×三八・〇糎、紙本墨書。

〔自賛〕一盆蒲艸一盆蘭、山家風味本／酸寒、板橋踪跡如萍水、到处蕭前排列看／板橋老人燮（印「維夷／水長」）

〔二十年／前舊／板橋〕

〔何紹基筆対聯〕

唐二幅

今関
1-3
2

〔清〕何紹基書

〔清〕写

（右）一六三・八×三八・三糎（左）一六三・四×三八・九糎、紙本墨書。

〔本文〕（右）出交天下士（左）入讀古今書／子貞何紹基（印「何印／紹基」「子／貞」）

〔陳介祺筆対聯〕

唐二幅

今関
1-4
2

〔清〕陳介祺書

〔清〕写

左右とも一二七・七×三〇・七糎、紙本墨書。篆書。

〔本文〕（右）野水有浪增澹碧（左）霜林無韻濕疏黄／簠齋陳介祺（印「齋東／陶父」「簠／齋」）

〔山水図〕

唐一幅

今関
1-5
1

〔清〕朱承画

〔清〕写（自筆）

一二九・一×三一・一糎、紙本淡彩。

【落款】用米元章画本／朱承（印「朱承／之印」「小／農」）

〔柯劭忞筆対聯〕

唐二幅

今関
1-6
2

柯劭忞書

〔民国〕写

左右とも一五九・八×二七・八糎、紙本墨書。隸書。

【本文】（右）富德先生 靈右／五福先推仁者寿（左）百行不愧古之人／柯劭忞拝輓

〔丁佛言筆対聯〕

唐二幅

今関
1-7
2

丁佛言書

民国七年（一九一八）一二月写

左右とも一三二・〇×二〇・八糎、紙本墨書。篆書。

【本文】（右）我宿命応得雨（左）季居処常有雲／戊午冬至前二日雪後 仏言（印「佛言／篆字」）

〔金城筆対聯〕

唐二幅

今関
1-8
2

金城書

民国九年（一九二〇）三月写

（右）一六五・四×四〇・二糎（左）一六五・四×四〇・三糎、紙本墨書。隸書。

【本文】（右）天彭先生自三島来遊書此就正（印「金城手摹／魏晉已前／金石文字印」）／聞道携壺問奇字（左）

便応給札奏新書／庚申三月吳興金城（印「鞏伯／篆籀」「金城／之印」）

〔金城自筆七言絕句〕

唐一幅

今関
1-9
1

金城撰并書

民国一四年（一九二五）冬写（自筆）

一四九・八×三九・九糎、紙本墨書。東海は天彭の父。

【本文】長公相識已經年、惜未登堂拜／老泉、七十七年間歲月、寶瀛／争羨地行仙（乙丑冬日俚句奉祝／東海先生壽 吳興金城（印「金城／私印」「葦／伯」）

〔章炳麟自筆七言古詩橫幅〕

唐一幅

今関
1-10
1

章炳麟撰并書

民国一二年（一九二二）夏写（自筆）

二八・五×五六・〇糎、紙本墨書。

【本文】北風吹空沙磧起、勞農／笳笛聞辺裏、学僮騰蹕／如飛狼、虎皮先生寒作羊、／嘶声伝語且帰沐、燕趙佳／人美如玉、成均六代音已衰、／伶簫倡舞亦可為、詩中曹／劉真老兵、新朝鼓吹宜蛙／鳴、冒頓英靈頭曼朽、物／寄瓶中更何有、竭来拳／幡称攘姦、須臾佻達城／闕間、慶卿凶窮終現匕、敢為錐刀争一死、焚書坑／儒信有人、未必陳吳為報／秦／録旧作貽／今関先生 民国十一年夏章炳麟／（印「章印／炳麟」「太／炎」）

〔跋葉致遠所藏永禪師千文抄出〕

唐一幅

今関
1-11
1

〔宋蘇軾〕撰、陳寶琛書

民国一四年（一九二五）一二月写

八三・〇×四〇・五糎、紙本墨書。

【本文】永禪師欲存王氏典刑、以為／百家書祖、故拳用旧法、非不／能出新意求變態也、然其意／已遠于繩墨之外矣／東海先生雅正 乙丑小除陳寶琛（印「陳印／寶琛」「太樓／之章」）

〔梅鶴図〕

唐一幅

今関
1-12
1

王廷珏（滄浪外史）画并賛

民国二五年（一九三六）一月写（自筆）

一三〇・六×三九・八糶、紙本淡彩。

【自賛】天彭大吟壇雅正／丙子新春滄浪外史写於滬上（印「王／廷珏」）／曾赴超山觀古梅、花開爛熳鶴徘徊、

／好将老幹分明写、贈与詩翁佐句裁／（印「滄浪／外史」）

〔霜柯竹石図〕

韓一幅

今関
1-13
1

〔朝鮮〕安中植等画、吳世昌賛〔朝鮮末〕写（各自筆）

一二六・七×三一・七糶、紙本墨書。画者は他に「岫雲」「大哉」。

【画賛】（印「竹々不工」）千戴東坡木竹石／心無絀礙樓中統／吳世昌觀並題（印「吳世昌／印」「葦／滄」）

【落款】岫雲作霜柯（印「岫／雲」）／心田写竹（印「安氏／中植」「心／田」）／文哉画石（印「心無／罣礙」）

〔鄭崙秀自筆五言古詩〕

韓一幅

今関
1-14
1

〔朝鮮〕鄭崙秀撰并書

〔朝鮮末〕写（自筆）

一三〇・三×六一・五糶、紙本墨書。

【本文】（印「東夷／之人」）／我齡四十六、蘊懷愁窮蹙、海内無知己、掩韋常雌伏、一士自東／瀛、其号曰天彭、

文学経済術、英年負盛名、憂国寔天性、人比漢／賈生、早遊燕趙間、慷慨氣不平、雲翁道此言、聞来願識荆、往
叩／終南扉、倒屣欣我迎、頽然海鶴形、双眸秋水明、如啞初相對、那／由露真情、索筆瀉肝胆、許心均弟兄、須
與數千字、滔々成文義、／樂々不知止、漫及天下事、拳世爭伯柄、君則尊王政、異教如洪／水、君則祖孔孟、歛

意反生極、時復一歎息、君筆我涕零、我筆君／心惻、主人如有思、謂我爾母悲、勉々挾正學、母為瀆俗移、天不
／喪斯文、庶見堯舜治／天彭詞伯雅正 華陰畸人鄭崙秀（印「華／陰」「鄭印／崙秀」）

〔彭錫祺自筆五言古詩〕

韓四幅

関
1-15
4

〔朝鮮〕彭錫祺撰并書

〔朝鮮末〕写（自筆）

一三六・〇×三一・三糶、紙本墨書。篆書。四幅全体で一首の詩になっているので、翻字は続けて記す。

〔本文〕（一）避暑賞池荷、香風溢亭閣、欣／看翠蓋搖、玲瓏錢綴落、模同／九府園、質或五銖薄、飛蛺止／澗浜、
綺文訝交錯、飲馬投溪／（二）畔、円光浮爰約、柳緑糸可窮、／苔青価相若、因思泉布法、自／古流通博、蕩心
伝漢初、長方／善裁度、交有名榆莢、改秦重／（三）幣作、苻桑創宋時、民間輕便／楽、是皆象形鑄、金銅所鎔
鑠、／惟茲美刺興、人力尽拳却、静／植出泥沙、宝貴徒珠珞、大冶／（四）広陶成、散佈在小沢、清華共／水鮮、
取用源不涸、奚羨万貫／纏、揚州詔騎鶴／今関先生大人 法正 永綏彭錫祺（印「錫／祺」「永／綏」）

〔陸鍾允自筆七言絶句二首横幅〕

韓一幅

関
1-16
1

〔朝鮮〕陸鍾允撰并書

昭和六年（一九三二）初夏写（自筆）

三五・一×九三・五糶、紙本墨書。

〔本文〕（不明印あり）島国羈居四／十年、笑将棟／字視如船、一／生慣過風濤／陰、到处泰然／高枕眠。／檐頭
語燕為／何啼、百姓家／中令借棲、不／見烏衣南北／巷、画樑旧夢／恋香泥／辛未初夏千木／堂主人自題于／東
都駒坂之／僦居（印「陸印／鍾允」「玉／田」）

〔祇園南海自筆〕贈筑州源太守白石〔七言古詩横幅〕

和一幅

関
今1-17
1

祇〔園南海〕撰并書

正徳五年（一七一五）秋写（自筆）

二九・三×六九・八糶、紙本墨書。改裝以前の卷止に「菊池惺堂藏」、元箱に天彭宛中村陶庵獻呈識語あり。落款印は偽印。詳しくは堀川貴司「祇園南海作新井白石六十寿賀詩について」（佐々木孝浩他編『古典文学の方法と対象』花鳥社、二〇二三）参照。

【本文】贈筑州源太守白石／白石先生天上仙、身騎騏驎下青天、三十六／帝留不得、天風吹衣何翩翩、夕倚扶桑息東壁、／夜鍊白石餐紫煙、往々吐出天上語、人間／聞者耳茫然、硯池傾瀉銀河水、織女雲／錦散成紙、々上須臾万言成、華嶽突／兀風濤起、鬼愁鬼嘯造化拙、戲／奪霞胎鑿雲髓、清如秋娥泣湘瑟、／奇如韓信破巨壘、我昔驂彼双白螭、／登攀仰掣紫雲霓、夜扣帝閭圓無人、／公一相見手扶持、文章於公誠余事、願為／蒼生完瘡痍、金門曉鳴珠勒馬、封／事夜奏治安策、韓之使者執玉帛、血面／爭礼頑如石、公歷西階握衣升、軒々如／霞拳屋額、腰帶紫陽太守印、／眼光如電髯如戟、按劍叱咤殿柱震、／使者胆寒喪其魄、擊劍歌成血吹霧、／機鋒觸処皆辟易、礼成奏奏賓主歡、／王家宝典与日赫、目弄蘭生似兒孫、魯連毛／遂皆僕役、千古功業与文章、何人如公／兩相将、但恐心事為／国苦、秋来鏡裏幾茎霜、万戸之侯／天空吝、為霖為雨久瞻望、一別東南參／商異、楚山四見青楓黄、関河有雁／音信少、江海無路夢魂長、何時／綈袍一得報、桑下之餐不可忘／乙未秋 祇正卿（印「一片冰心／在玉壺」）

〔蓑亀図〕

和一幅

関
今1-18
1

〔西村〕楠亭画、海保青陵賛

〔江戸後期〕写（自筆）

一〇二・八×二八・〇糶、紙本墨書。

【画賛】（印「画虎類犬」）常在主人坐、／愛看齊子孫、／宜分万寿半、／以報錦衣恩、／青陵鶴題／（印「海保／皋鶴」）

萬／和氏

【落款】楠亭席上（印「席上／戲墨」）

〔秦滄浪自筆〕夢遊富嶽〔七言律詩〕

和一幅

今関
1-19
1

秦〔滄浪〕撰并書

〔江戸後期〕写（自筆）

七八・一×四一・三糶、紙本墨書。第四句「青」は本文末に小字にて追記。

【本文】（印「古蓬萊」）／海東靈境富山嶺、登此無／人不作仙、一夜神飛雲際路、／八峰腳踏玉〔青〕蓮、目遊象
外心如／醉、日出洋中水欲然、赫女月遷／猶未遇、覺來搔首問蒼天／夢遊富嶽 秦鼎（印「秦鼎／之印」「士鉉／氏」）

〔蘭図〕

和一幅

今関
1-20
1

遠山雲如画并賛

〔江戸後期〕写（自筆）

一〇五・九×四五・三糶、紙本墨書。

【識語】（印「仙心／禪院」）／予不諳絵画之事、／以作詩之秘神写胸中／之逸氣耳／雲如山人（印「遠山／澹印」）

〔雲／如〕（下部に画者の落款印「雲如／山人」もあり）

〔加藤肥後守題名石刻拓本并藤澤東畱題跋〕

和拓一幅

今関
1-21
1

闕名者書、（題跋）藤澤〔東畱〕（甫）撰 嘉永元年（一八四八）六月拓并写（自筆）

一一八・六×二七・八糶、紙本墨拓・墨書。上部に「加藤肥後守」と記された石の拓本、下部に題跋。

【題跋本文】大阪之脩城也、戊申夏。剝南門旧石板、有背刻字者、／曰加藤肥後守。是蓋豊太閤創城之時献之、

因勒其名／者。而加藤武人所仰尊、乃打搦若干。此墨搦其一也。窃／聞、三韓來聘在近、將受諸大阪、所以脩城也。顧、為豐公征韓國以耀威武者、非猷是石之人乎。而韓客鞠躬縮々／踏是石、行聘于 昭代矣。昔以干戈往、今以玉帛來。於／是有感乎世運之變云。／嘉永紀元夏六月中浣／ 大阪僑客東讀藤沢甫識（印「藤／甫」「元／發」）

〔石川鴻齋自筆書画扇面〕

和一幅

関
今1-22
1

石川鴻齋（英）撰并書画

〔明治〕写（自筆）

（上）五〇・三×二二・八糎、五言律詩（下）五〇・九×二三・五糎、山水図并七言絶句、紙本墨書。

【上】本文（印「紫芝山人」）／地僻無／客訪、／連晨雨／似糸、／寄書思／旧友、／練句竄／新詩、／颯々青／嵐帚、／斑々緑／拗兒、／晚來聊／放霽、／担馬叫／輕颺／夏雨連日、草堂／無事、賦此排／悶／鴻斎石英／（印「石印／景英」「君／華」）

【下】自賛（印「静幽」）／我是／深叢／一腐／儒、講／經釈／史授／生徒、／世間／何事／賞余／技、漫／寄楮／縑求／画図／鴻斎英／詩画／（印「石英／私印」「君／華」）

〔蘭竹図〕

和一幅

関
今1-23
1

〔渡辺〕小華画

〔明治〕写（自筆）

一三五・四×四七・〇糎、紙本墨書。画賛の句は李白「古風其三十八」の第七・八句（「不」は「無」に作る）。

【自賛】若不清風吹、香氣為誰発 小華生写（印「小／華」「韶／卿」）

槐南先生畫像

和一幅

関
今1-24
1

〔橋本〕芳郊画、〔土居〕香國書 〔明治大正〕写（自筆）

九四・一×三三・〇糲、絹本淡彩。賛は『槐南集』卷十七所収「失題」（第三句「華」を「玉」に作る）。

【画賛】（不明印）／人皆欲殺李青蓮、始／信吾生是謫仙、華自／不言桃李笑、春風偏在／草堂前（槐南先生詩／通豫謹書（印「通豫／之印」「香國／華御史」）（下部に画者落款印「芳郊」あり）

〔巽李軒自筆七言律詩〕

和一幅

今関
1-25
1

〔巽〕李軒撰并書

〔明治大正〕写（自筆）

一四〇・〇×三三・九糲、紙本墨書。

【本文】（印「大我」）／滿目山川傷夢魂、朔辺遠戍老營屯、／鬢毛皆染嚴霜色、鎧袖僅余汗血痕、折／柳曲中風漸瀝、落梅声裏月黄昏、塞頭／孀婦莫吹笛、漫使征人憶故園 李軒居士（印「李／軒」）

〔杉浦重剛筆四大字横幅〕

和一幅

今関
1-26
1

杉浦重剛（梅窓）書

大正九年（一九二〇）秋写

三三三・二×一二五・九糲、紙本墨書。

【本文】（印「乾坤容我豪」）精／義／入／神／大正庚申秋／日応今関天／彭君需用銀／明水書之／梅窓剛／（印「杉浦／重剛」）「自仲毅／号梅窓」

〔今關東海自筆七言絶句〕

和一幅

今関
1-27
1

〔今〕關東海撰并書

大正一四年（一九二五）秋写（自筆）

一二九・五×三三・〇糲、紙本墨書。

【本文】（印「志之暮年／壯心不止」）／四時雪月又花鵲、未飽風光七十年、／有酒盈罇書滿架、僑居只恨乏林泉

／乙丑秋日高園之即事七十七叟関東海（印「延年／益壽」「潤卿／之印」）

〔加藤佩韋自筆嬉春七言絶句（「寧向」）〕

和一幅

今関
1-28
1

加藤佩韋撰并書

〔昭和〕写（自筆）

一三〇・三×三二・九糎、紙本墨書。引首印天地逆に押捺。

【本文】（印「上善／如水」）／寧向花前歎白頭、昨從湖海識荊／州、鷗波移棹日尋約、倚遍江南罨／画楼 嬉春

詩之一天彭先生吟定 佩韋散人（印「加藤／節次」「佩韋／學人」）

〔加藤佩韋自筆嬉春七言絶句（「啼鳥」）〕

和一幅

今関
1-29
1

加藤佩韋撰并書

〔昭和〕写（自筆）

一三〇・五×三二・七糎、紙本墨書。引首印天地逆に、落款印「加藤／節次」右横倒しに押捺。

【本文】（印「上善／如水」）／啼鳥窺窓漫昼閒、書楼此日始／開顔、故人家近桜花寺、春酒一樽／幾往還 嬉春

詩之一天彭先生吟定 佩韋散人（印「加藤／節次」「佩韋／學人」）

〔松田江畔自筆五言律詩〕

和一幅

今関
1-30
1

松田江畔撰并書

〔昭和〕写（自筆）

一三六・〇×三四・二糎、紙本墨書。

【本文】空山養吟骨、垂老志猶雄、載筆游華／北、詠詩帰海東、半生氷雪裏、一笑乱／離中、故国春光早、梅花

照石櫛／寄天彭翁在遠州龍山 廬陵 江畔達拝草（印「士／學」）

〔珠湖図〕

和一幅

今関
1-31
1

〔谷森〕愛竹画

〔近代〕写（自筆）

五三・三×八〇・〇糎、絹本淡彩。高郵湖畔鎮国寺塔を描くか。

〔落款〕愛作（印「愛竹」）

〔豊干図〕

和一幅

今関
1-32
1

宅野田夫画

〔近代〕写（自筆）

一三五・〇×三三・九糎、紙本淡彩。

〔落款〕田夫（印「田／夫」）

〔羅漢図〕

和一幅

今関
1-33
1

〔荒井〕寛方画

〔近代〕写（自筆）

一二九・五×三三・〇糎、紙本淡彩。

〔落款〕寛方（印「寛／方」）

〔墨竹図〕

和一幅

今関
1-34
1

杉原夷山画并賛

〔近代〕写（自筆）

一三七・八×三三・二糎、紙本墨書。

〔自賛〕（印「虚心友石」）／余之画竹不師古、唯任／筆所之耳、人尤之以為魔道／邪逕耶、或謗之以為野狐禪耶、

抑亦称開山始祖耶、余默而不弁也／天彭今関先生一粲 夷山杉原幸（印「杉原／幸印」「夷／山」）（右下にも印「自

然中／有成法」あり

〔鶏図〕

和一幅

今関
1-35
1

岸九峯画

〔近代〕写（自筆）

一三〇・五×八〇・五糎、絹本濃彩。右下に落款印「嘯傲／煙霞」「岸印／九峯」あり。

〔楊柳観音図〕

和一幅

今関
1-36
1

藤〔井〕大星画〔并賛〕

〔大正昭和〕写（自筆）

一四九・二×四〇・七糎、紙本淡彩。上部に般若心経全文（翻字省略）を記す。

〔落款〕大星写（印「藤印／大星」）

〔山水図〕

和一幅

今関
1-37
1

〔大八木〕也香画

昭和元年（一九二六）春写（自筆）

一四〇・四×三八・五糎、紙本墨書。改装以前の巻止に「水墨山水 紙本／今関様」とあり、あるいは天彭の求めに応じて制作されたものか。

〔落款〕丙寅春日／也香生（印「也香」）

〔蘭図〕

和一幅

今関
1-38
1

〔尾崎〕日暲画并賛

昭和二年（一九二七）二月写（自筆）

一二九・四×三三・一糎、紙本墨書。画者の法名、落款は「暲」、落款印および改装前の巻止は「璋」を用いる。
【自賛】（印「天晴／地明」）／常愛山中意、／栽蘭坐草堂、春風偏／到处、庭上多清香／昭和丁卯仲春／大僧正日暲（印

「大本山／妙蓮寺／五十九世」「大僧正／日璋」

〔尾崎日璋筆一行書〕

和一幅

今関
1-39
1

〔尾崎〕日璋書

昭和七年（一九三二）一月写

一六・七×三二・〇糎、絹本墨書。

【本文】（印「卯木山」）唯以善為宝／時在昭和壬申初春大僧正日璋書（印「大本山／妙蓮寺／五十九世」「大僧正／日璋」）

〔五雜組抄出〕

和一幅

今関
1-40
1

〔明謝肇淛〕撰、玉鳳書

昭和一年（一九三六）四月写

一二九・〇×三二・八糎、紙本墨書。『五雜組』卷十一・物部三の一節を記す。和刻本では末尾に「也」あり。

【本文】（印「清氣滿／乾坤」）／上苑之蘋婆、西涼之葡萄、吳下楊梅、美矣。然／校之閩中荔支、猶隔數塵在也。

蘋婆如佳婦、／葡萄如美女、楊梅如名伎、荔支則広寒中仙／子、氷肌玉骨愛而不可狎。／丙子四月三日 玉鳳書

（印「蓬首／散帶」「自審／其可」）

〔望湖樓醉書〕

和一幅

今関
1-41
1

〔宋蘇軾〕撰、玉鳳書

昭和二年（一九三六）夏写

一九二・五×二九・八糎、紙本墨書。料紙竹紙か。

【本文】（印「江清月近人」）／黒雲翻墨東遮山、白雨跳珠乱／入船、卷地風来忽吹散、望湖楼下／水如天 丙子

夏日 玉鳳書（印「茶使／入清」「得魚／忘筌」）

萬壑爭流〔図〕

和一幅

今関
1-42
1

〔近伏鵬〕（樗散人亮）画

昭和二年（一九四六）春写（自筆）

三一・二×四三・〇糎、紙本淡彩。

【題字・落款】万壑／争流／丙戌春日／樗散人亮（印「亮印」）（左下に印「守拙」あり）

新篁解籜〔図〕

和一幅

今関
1-43
1

〔伊藤〕畹芳画

〔昭和〕写（自筆）

四二・〇×四五・五糎、紙本墨書。

【題字・落款】新篁解籜／畹芳（印「文瑾」「畹／芳」）

〔石井雙石自筆〕午睡〔七言律詩〕

和一幅

今関
1-44
1

〔石井〕雙石撰并書

昭和三年（一九五八）夏写（自筆）

一一・〇×一七・九糎、紙本墨書。

【本文】老仙招我出塵寰、飛上江南万里山、翡翠巖頭撥雲臥、夫容峯下躡星攀、吳／波楚岫互天吐、白虎青羊相往還、

夢覺午窓堪一咲、清游只在瞬時間／午睡 戊戌夏日録旧作双石時年八十又六（印「碩」）（「雙／石」）

飲中八仙歌

和一幅

今関
1-45
1

〔唐杜甫〕撰、鎌田義勝書

昭和三年（一九五八）一〇月写

一三五・二×三二・六糎、紙本墨書。

【本文】（印「雲无心」）／知章騎馬似乘船、眼花落井水底眠、汝陽三斗始朝天、道逢麴車口流涎、恨不／移封向酒泉、

左相日興費万錢、飲如長鯨吸百川、銜杯樂聖称避賢、宗之瀟灑／美少年、拳觴白眼望青天、皓如玉樹臨風前、蘇
晋長齋繡仏前、醉中往々愛逃禪、／李白一斗詩百篇、長安市上酒家眠、天子呼來不上船、自称臣是酒中仙、張旭
三杯／草聖伝、脱帽露頂王公前、揮毫落紙如雲煙、焦遂五斗方卓然、高談雄弁驚四筵／戊戌十月録飲中八仙歌今
関先生雅鑑 鎌田義勝書（印「鎌／田」「義／勝」）

黄山谷先生小象

唐拓一幅

関
今146
1

〔清〕 関名者画、黄雲鵠刻并跋、翁方綱書 〔清末民初〕 拓

一一二・〇×五二・九糎、紙本墨拓。光緒一〇年（一八八四）刻石の拓本。

【翁方綱賛】 似僧有髮、似俗／無塵、作夢中夢、見身外身／山谷先生自作像／賛後学翁方綱書

【黄雲鵠跋】 先文節公以涪州別駕安置戎州、寓蜀最久。風節人／所共知、生平詩法一尊杜文貞。光緒甲申 大府援
／陸放翁附祀之例、列公位於杜公左方、特拏亦公義也。〈雲鵠〉 世系為公三十九代裔孫、譜牒昭然、不敢引嫌自匿。

尤不敢忘大府表彰前德之盛意、謹摹 公像立石座前、用伸忻仰并識緣起於後。（印「黄雲／鵠印」「祥／人」）

東坡笠屐圖

唐拓一幅

関
今147
1

関名者画 〔民国〕 拓

一三五・一×六二・一糎、紙本墨拓。改裝以前の卷止に「昭和六年重三天彭題于燕山草堂（印「華陰」）と記す。

〔山月梁曇筆対聯〕

唐？拓二幅

関
今148
2

山月梁曇書

〔民国〕 拓

（右）一五七・四×二六・三糎（左）一五七・〇×二六・五糎、紙本朱拓。

【本文】(右) 疊鼓夜深、垂鐙春淺 (左) 写經窓靜、覓句堂間／山月梁曇書于年八十有九 (印「山／月」「梁／曇」)

〔奉徳寺梵鐘撞座飛天〕

韓拓一幅

今関
149
1

闕名者画

〔近代〕拓

一一九・六×六六・六糧、紙本墨拓。改装以前の卷止には「朝鮮皇芬寺唐鐘」とあり。

〔和魂漢才碑〕

和拓一幅

今関
150
1

〔伝菅原道真〕撰、福〔地海村〕〔慈謙〕書〔昭和〕拓

一三三・一×八一・一糧、紙本墨拓。『菅家遺誠』卷一末の「要文二則」と呼ばれる部分。

【本文】凡神国一世無窮之玄妙者、／不可敢自窺知。雖學漢士三／代周孔之聖經、革命之國風／深可加思慮也。／凡

国学所要、雖欲論涉古今／究天人、其自非和魂漢才、不／能闢其閭奧矣。／昭和九甲戌新嘗祭日 福慈謙薫沐敬書

安達丈人頌德碑

和拓一幅

今関
151
1

今關天彭撰、福地海村書

〔昭和一〇年（一九三五）一〇月〕拓

二〇三・八×八九・三糧、紙本墨拓。上部に阿部嘉七の題額「頌德碑」(行書)あり。

【本文】安達丈人頌德碑 静岡県知事従四位勲四等阿部嘉七題額／輓近世風降下、心陋跡劣者、滔々皆然。大

獄発乎上、偽詐行于下、雖謂鴻水襄／陵嶽雪失色、豈不可乎。当此之時、有如安達丈人者。拔足急流、志在報本、

躋八／秩之寿、荷一国之望。其高風清節、真足偉矣。何唯鄉人之頌其德而已乎。丈人／諱重助、静岡市丸子大鐘

人。父近藤平五郎、母鷺巢氏、其第四子、以安政元年／生。幼名丑太郎。歳十二、為吉原人安達翁重助所養。養

父當商、以精幹称。明治／初移家横浜、從事貿易、無幾有開拓北海道之事、開肆函館、家道大振。丈人力／居半

焉、養父没、丈人承家、拮据奮勵、將垂十年。偶有所感、拳橫浜函館兩肆委／之家宰、以静岡之近于桑梓、相地定居。軼掌公共事業、有德之称日起。大鑪之／地、僻在山間、其開発一日不離於懷。明治廿七年勸郷人築路、廿九年義捐救／済資金、三十五年再之。大正四年不動堂再建義捐山林、又自築路置茶亭以／供賽者之便。八年誓願寺再建義捐巨金。昭和五年与郷人謀拔路至于不動／堂下。於是賽者絡繹不斷云。丈人為人誠実、当事能忍、有胆力、信人極厚。有德／之称、其出于此歟。今茲五月郷人有建石頌德之拳、請余記其由。余不自揣、尚／丈人之高義、感郷人之盛事、拋状具書如此。／東京 天彭今関寿磨撰文 静岡 海村福地謙謹書／昭和十年歲在乙亥十月初吉

（石工守屋藤一刻字）

〔短冊掛〕

和一幅

関
今
1-52
1